

# 保育者としての資質向上研修俯瞰図

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

		Hop	Step	Jump
A	愛されて育つ子ども	<b>子どもの人権</b> <b>A1-I 子どもの理解</b> (多様な子どもの受容) ○家庭環境、人種、職業等の違いの認識 ○差別的な言葉・表現の理解 (人権を守る保育) ○子どもの人権と権利の理解 ○性差/個体差の認識と共有  (支援を要する保育) ○インクルーシブ・特別支援教育の理解	<b>A1-II 子どもの理解</b> (多様な子どもの受容) ○家庭環境、人種、職業等の違いの理解  (人権を守る保育) ○子どもの人権と権利の共有 ○子どもの権利条約 (生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)の理解 ○ハラスメント・ジェンダーの認識  (支援を要する保育) ○インクルーシブ・特別支援教育の共有	<b>A1-III 子どもの理解</b> (多様な子どもの受容) 家庭環境、人種、職業等の違いの共有  (人権を守る保育) ○人権教育論の理解と共有 ○子どもの人権と権利の擁護 ○少年法/児童福祉法/発達障害者支援法/家族法 児童憲章等の理解と共有 ○子どもの権利条約 (生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)の理解と共有 ○ハラスメント・ジェンダー・マイリティ・共生社会・合理的配慮の共有 (支援を要する保育) ○インクルーシブ・特別支援教育の体制構築
		<b>子どもの健康と安全</b> <b>A2-I 健康な生活</b> (健康的な園生活) ○視診・触診 ○家庭との連絡(既往症持病、アレルギー把握・対応・配慮) ○心理面のケア/アタッチメント ○身体測定、健康記録 ○健康衛生指導 ○生活習慣指導 ○健康診断 ○与薬(薬事法) ○就寝管理/呼吸確認(定時・SIDS対応) ○救急法(ケガの対応・心肺蘇生法・AED等) ○エビベン等への対応  <b>A3-I 安全な園生活</b> ○救急法(ケガ、心肺蘇生法・AED誤飲・誤食等) ○安全指導、安全管理 ○積極的なヒヤリハットの活用 ○自園の安全管理マニュアルの理解と確認 ○災害・危機管理マニュアル、危険予知・予防(遊具・園庭環境・園外保育・有害動植物等) ○侵入者防衛/対応	<b>A2-II 健康な生活</b> (健康的な園生活) ○食育(栄養管理) ○食品衛生 ○園医等との連携 ○保護者への健康(保健日より含む)・栄養指導と支援 ○家庭への生活習慣指導と支援 ○与薬(薬事法) ○エビベン等への対応 ○園医・園歯科医・医療機関との連携 ○愛着(アタッチメント)理論  <b>A3-II 安全な園生活</b> ○小児保健(疾病含む)校医との連携 ○災害管理、安全確認(遊具施設、園内環境) ○後輩への安全指導 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメント -防災計画・訓練(マニュアル)の検証	<b>A2-III 健康な生活</b> (健康的な園生活) ○食環境 ○栄養指導と支援(家庭向け) ○伝染病への対応 ○施設の衛生管理 ○薬品管理 ○子どもの生活環境に対する分析と提言 ○与薬(薬事法)  <b>A3-III 安全な園生活</b> ○健康管理 ○責任者論 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメント -防災計画・訓練(マニュアル)の企画・立案・作成・実施 ○重大事故・事件の報告・公表
		<b>愛されていると感じられる保育</b> <b>A4-I 愛情深い保育</b> ○心の教育・保育・心・情動に向き合った保育 ○人間観・子ども観 ○愛されていると感じられる保育 ○安心・安全を感じられる保育 ○自己肯定感・自尊感情の醸成 ○虐待・DV防止	<b>A4-II 愛情深い保育</b> ○心の教育・保育・心・情動に向き合った保育 ○人間観・子ども観 ○宗教保育(仏教保育、神社保育、キリスト教保育等) ○愛・感謝・希望を育む保育 ○愛着形成(家庭・地域社会と共有)	<b>A4-III 愛情深い保育</b> ○愛・感謝・希望を育む保育 ○宗教性を基盤に置いた保育
B	子どもと共に育つ保育者	<b>人間性豊かな保育者</b> <b>B1-I 人間性を磨く</b> (視野の拡大) ○感性を磨く(芸術や美術に触れる) ○社会的活動(地域活動への参加など) ○ボランティア活動 ○リフレッシュ体験に出会う	<b>B1-II 人間性を磨く</b> (視野の拡大) ○異業種体験 ○他園実習研修 ○リフレッシュの重要性を理解する	<b>B1-III 人間性を磨く</b> (視野の拡大) ○海外研修 ○自らへの投資を意識づける ○リフレッシュのタイミングを理解し、提案する
		<b>子どもの心に寄り添い、ともに生活し育ち合う</b> <b>B2-I 子どもの理解</b> (育ちの理解) ○幼児期の発達理解 (子ども理解) ○多様な理解に出会う (子どもを評価する様々な技能や客観化する手法(評価のスケール等)の)研修 ○評価方法を知る (公開保育) ○自園で他の保育者の保育をみる ○他園の公開保育に参加し自園との違いを感じる  (エピソードの記述) ○語り合いながら、育ちや学びを共有することを	<b>B2-II 子どもの理解</b> (育ちの理解) ○乳児期と児童期の理解 (子ども理解) ○多様な理解をする (子どもを評価する様々な技能や手法(評価のスケール等)の)研修 ○評価方法を使いこなす (公開保育) ○自園で自分の保育を見てもらい意見をもらう ○他園の公開保育に参加し自園の良さや課題を理解する  (エピソードの記述) ○語り合ったり、記述したりすることを理解する	<b>B2-III 子どもの理解</b> (育ちの理解) ○青年期(生涯)の理解/生涯発達心理の理解 (子ども理解) ○多様な理解を提案する (子どもを評価する様々な技能や手法(評価のスケール等)の)研修 ○評価方法を提案する (公開保育) ○自園で互いの保育を見合い、園全体で共有する ○自園の保育を他園に公開する ○他園の公開保育に参加し自園と他園をコーディネートする (エピソードの記述) ○エピソードからの多様な読み取りを提案する
		<b>遊びの専門性</b> <b>B3-I 豊かな遊び</b> (アウトドア体験) ○自然と触れ合い遊び方を知る (プレイパーク、遊び場研修) ○魅力的な遊び場を体験する (生き物と触れ合(命と触れ合)う体験、自給自足体験) ○生き物と触れ合い、育て方を知る (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○得意分野を知る	<b>B3-II 豊かな遊び</b> (アウトドア体験) ○遊びを工夫する (プレイパーク、遊び場研修) ○遊び場を創造する(園内) (生き物と触れ合(命と触れ合)う体験、自給自足体験) ○生き物の知識などを増やす (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○得意分野を磨く	<b>B3-III 豊かな遊び</b> (アウトドア体験) ○遊びを創りだし提案する (プレイパーク、遊び場研修) ○遊び場を再生する(地域) (生き物と触れ合(命と触れ合)う体験、自給自足体験) ○生き物を生活に取り込む (自分の得意分野を持ち、保育に生かす) 絵画・造形・音楽・運動等の分野とそれ以外の分野 ○個の得意分野を園全体の保育に生かす
		<b>社会人としての役割</b> <b>B4-I 社会人としての自覚</b> (社会人としての姿) ○社会人としてのモラル・ルール・マナーを知る ○自分の仕事を理解し、慣れる ○組織の一員としての自覚を持つ ○クラス担任の仕事を理解する	<b>B4-II 社会人としての自覚</b> (社会人としての姿) ○積極的なルールやマナーを理解する ○組織の一員として期待される役割を意識する ○自分の仕事の目的・役割を認識する ○学年としての見直しをもつ	<b>B4-III 社会人としての自覚</b> (社会人としての姿) ○リーダーとしてのモラル、ルール、マナーを知る ○保育者としての在り方を具体的に自らが示す ○組織の活性化を図る ○仕事の目的・目標を明確化する ○仕事の効率化を図る
		<b>自園の保育の理解と実践</b> <b>B5-I 自園保育の理解</b> (自園理解(建学の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念を理解する ○自園の教育課程を理解する  (日常の保育の点検) ○保育のねらいを理解し意識する ○園のルールを知り、理解する (行事) ○行事の意義を知る	<b>B5-II 自園保育の理解</b> (自園理解(建学の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念の特長を理解する ○教育課程を編成する  (日常の保育の点検) ○保育のねらいを点検し見直す ○園のルールを検証し見直す (行事) ○行事を点検・検証し見直す	<b>B5-III 自園保育の理解</b> (自園理解(建学の精神・園としての持ち味)) ○自園の教育・保育理念の特長の継承と課題の改善をする ○自園の教育・保育理念を編成し明文化する ○教育課程を見直し再編する ○自然環境・遊び場マップを作る ○子育て講座を実践する (日常の保育の点検) ○意見を集約し再構成する ○保育の目的やルールの意義を評価し見直しを投げかける (行事) ○意見を集約・検証し再構成する
		<b>職場における同僚性</b> <b>B6-I 同僚性を高める</b> (人間関係力) ○尋ね、相談する ○積極的にコミュニケーションをする ○メンター(助言者)等をもつ ○ワークショップに参加する	<b>B6-II 同僚性を磨く</b> (人間関係力) ○指導、助言が相手の立場に立ってできる ○リーダーの役割を学ぶ ○メンターを指名する ○メンターの役割を担う	<b>B6-III 同僚性を磨く</b> (人間関係力) ○ワークショップを運営する ○次代のリーダーを育てる
C	教育・保育理論	<b>保育の歴史や思想を知る</b> <b>C1-I 歴史と思想</b> ○現代社会に於ける子どもの問題 ○現代の教育・保育施設の誕生と理念  ○ジョン・ロック、ルソー、パスタロッチ、フレーベル、デュイ、エレン・ケイ、モンテッソーリ、ニール、シュタイナー、マラグッティ など ○オーベルランの幼児保護所、オーエンの幼児学校、フレーベルのキンダー・ガルテン、モンテッソーリの子ども家、マクランの保育学校 ニールの自由学校、シュタイナー学校、レッジオエミリア市の幼稚園、ヘッドスタート計画	<b>C1-II 歴史と思想</b> ○社会変化と子どもの状況 -保育思想の芽生え ○保育制度や乳幼児期養育施設の変遷	<b>C1-III 歴史と思想</b> ○現代の保育制度と保育理念 ○多層化する保育ニーズ
		<b>保育を支える発達理論を知る</b> <b>C2-I 発達理論</b> (発達に即した保育) ○保育から看取る身体的・知的発達 ○保育を通して発達段階と保育課題  (発達の基礎理論) ○幼児期の育ち 身体的育ち・情動の育ち・ことばの育ち・知的な育ち・友達関係の育ち  ○ピアジェ、ピゴツキー、ワロン、エリクソン、ハーヴィガースト、ボールビイ、アインスワース など ○発達のとらえ方、発達段階説、発達の最近接領域、発達課題、内言語、愛着の形成、「母性的養育の喪失」の問題	<b>C2-II 発達理論</b> (発達に即した保育) ○応答的に環境に関わることの意味 ○自我の発達と家族関係の心理 -愛着の形成とホスピタリズム ○子どもの姿と発達理論上の相違の理解 (発達の基礎理論) ○乳児期から児童期の育ち 社会性の育ち・道徳性の育ち・認知機能の育ち・自我・性格の育ち	<b>C2-III 発達理論</b> (発達に即した保育) ○応答的な人的環境とは ○保育者の心理 ○現代の社会環境での発達の課題  (発達の基礎理論) ○生涯発達の視点 主要な発達論の理解と乳児期、幼児期、児童・青年期の連続性と その規定要因の理解
		<b>日本の保育制度を知る</b> <b>C3-I 制度の理解</b> (保育の歴史) ○我が国の保育施設と保育施設 -社会の変容と保育施設 -子育て・保育に関する報道からみえる考え方 -ベビーホテル等の保育環境 (教育・保育制度) ○幼稚園・保育所・こども園・認可外保育施設の違い ○学校と児童福祉施設の違い -家庭を補完し、発達を援助する -幼児を保護し、家族を支援する  ○東京女子師範学校附属幼稚園、新潟静修学校附属の幼児施設、二葉幼稚園、頌栄保母伝習所 ○倉橋惣三、城戸幡太郎、A. L. ハウ女史 など ○幼稚園令、保育要領から幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領	<b>C3-II 制度の理解</b> (保育の歴史) ○保育制度の歴史と自園の設立の経緯  (教育・保育制度) ○自園を取り巻く環境と保育制度の関係 -労働環境・家庭環境と開園時間など ○少子化時代の乳幼児教育施設 -エンゼルプラン、次世代育成支援法・子ども子育て支援法などの政策との意味	<b>C3-III 制度の理解</b> (保育の歴史) ○創生期の幼児教育施設とその思想的リーダー ○社会情勢の変化に伴う教育施設の変遷と多様化 -幼稚園・保育園の成り立ち  (教育・保育制度) ○保育制度の多様化が生む教育・保育観の違い -幼稚園・保育園の歴史的経緯 -児童中心主義と集団主義 -経験主義の学力観と系統主義の学力観 ○平成元年の幼稚園教育要領改訂の意義 ○発達・保育履歴の継続など制度上の問題点 ○現代的課題と保育者・保育団体の役割

		Hop	Step	Jump
D	子どもの理解	<b>D1-I 育ちの理解(事例研究)</b> ○胎児から誕生までの育ち ○誕生から就学までの育ち ○身近な大人との関係の中での育ち - 基本的信頼感、愛着形成、自我の芽生え、自己主張 ○自己肯定感と自己有能感の獲得 ○子ども同士の関係の中で - 自己発揮、自己抑制、自律の獲得 - 一人遊び～集団遊び、ごっこ遊び - 母子分離、ケンカ、協同する経験	<b>D1-II 育ちの理解(事例研究)</b> ○認知の発達(育ちの節目の理解) ○協同的学びの展開 ○縦割り保育、異年齢交流を実践する ○目に見えない内面や心情的理解 ○同僚性を基盤としたチームとしての学び合い	<b>D1-III 育ちの理解(事例研究)</b> ○園の教育・保育理論の確立(リーダーとして) 子ども理解に始まる保育・教育 乳児期の保育と幼児期の教育の一体化(インテグレーション) ○学童期の発達の姿 ○人生の基礎を培う乳幼児期 コミュニケーション力・社会人基礎力・批判的思考力
		<b>D2-I 育ちの記録(取る)</b> ○個人記録 ○保育日誌 ○さまざまな記録(エピソード、環境図、写真、動画)	<b>D2-II 育ちの記録(利用する)</b> ○日誌からエピソードへ ○保護者との育ちの共有 エピソード、ドキュメンテーション、ポートフォリオ ※写真等の活用 ○肯定的視点による記録 ○集団の記録 ○個別記録の引き継ぎ	<b>D2-III 育ちの記録(生かす)</b> ○エビデンスに基づく育ちの検証と記録ができる ○園内研修(ケース会議)を企画する - 子ども理解から始まる教育・保育実践 ○園内研修の実施とフィードバック ○保育へのフィードバック ○研修の目的を達成する
		<b>D3-I 特別支援教育の理解</b> ○特別支援とインクルーシブ教育 ○様々な障がい(自閉症スペクトラム、合理的配慮等) ○特別支援教育の実践基礎	<b>D3-II 特別支援教育の保育実践</b> ○園内の連携、家庭との連携(家庭支援) ○個別の指導計画	<b>D3-III 特別支援教育の環境整備</b> ○ケースカンファレンス ○基礎的環境整備 ○個別的教育支援計画 ○小学校、専門機関との連携
E	保育実践	<b>E1-I 自園の教育・保育課程</b> ○教育・保育課程がめざす理念の理解 ○教育・保育課程を生かした指導計画の作成	<b>E1-II 自園の教育・保育課程</b> ○教育・保育課程がめざす理念の理解と共有 ○教育・保育課程を生かした指導計画の検証と、保育現場における課題の明確化 ○教育要領、教育・保育要領などと自園の教育・保育課程との関連性の理解	<b>E1-III 自園の教育・保育課程</b> ○自園の教育理念の明確化 ○教育要領、教育・保育要領などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○誕生から小学校以降までの育ちを見通した教育・保育課程の編成、解説、共有、見直し ○幼児教育の社会的意義を社会に発信する方策とエビデンス
		<b>E2-I 実践のための知識</b> (様々な保育形態) ○異年齢混合保育、チーム保育、預かり保育などの理解  (個と集団) ○個と集団の関係性の理解 (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりの理解する ○年齢や発達を考慮した学級運営の基礎知識 (遊びの知識と理解) ○伝承遊び、自然とかわる遊び、新しい遊び	<b>E2-II 実践のための知識</b> (様々な保育形態) ○異年齢混合保育、チーム保育、預かり保育などへの柔軟な対応  (個と集団) ○個と集団の関係を生かした学級運営の実践 (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりの検証 ○年齢や発達を考慮した学級運営の検証 (遊びの知識と理解) ○遊びの意味と育ちへのつながり ○自然発生的な遊びの重要性 (教材の知識と理解、作成) ○各教材と育ちへのつながりの理解 ○教材の選択、作成、改良 (発達や学びの連続性の保証) ○小学校以降の学習へのつながりを意識した保育	<b>E2-III 実践のための知識</b> (様々な保育形態) ○自園の教育理念に基づく保育形態の選択 ○保育形態への理解を促す解説、価値観の共有 (個と集団) ○個と集団の関係を生かした園の体制づくり (年齢に応じたかわり) ○年齢や発達に応じた保育内容やかわりを、生涯の育ちという観点から検証 (遊びの知識と理解) ○遊びの意味と育ちへのつながりの解説と共有
		<b>E3-I 計画の立案</b> (保育の理解と計画) ○心情、意欲、態度の育ちの基本 ○環境を通しての保育の基本 ○遊びを通しての育ちと学びの基本 ○協同的な遊びと学びの基本  (保育案等の作成) ○主体性が生きる保育案の工夫 ○行事の意義の理解 ○特別支援教育における個別指導の理解、計画の作成 ○0、1、2歳児における個別指導の理解、計画の作成	<b>E3-II 計画の立案</b> (保育の理解と計画) ○心情、意欲、態度の育ちを意識した実践 ○環境を通しての保育の実践 ○遊びを通しての育ちと学びの実践 ○協同的な遊びと学びの実践 ○遊びや活動を充実させる時間設定の工夫 (保育案等の作成) ○実践に生きる保育案のあり方と再構築の考察 ○行事の立案 ○特別支援教育を充実させる個別指導計画のあり方 ○0、1、2歳児保育を充実させる個別指導計画のあり方	<b>E3-III 計画の立案</b> (保育の理解と計画) ○遊びや活動を充実させる時間的な環境作り ○現場で生きる指導計画や保育案のフォーマット作成 ○指導計画の存在と大切さを社会に発信する方策
		<b>E4-I 環境の構成</b> ○環境構成の重要さの理解 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の基本的な知識と理解 ○魅力的な環境作りのための技術の習得 ○環境の要としての保育者のあり方 ○子どもとともに環境を作り出すことの意義 ○コーナー保育などの理解	<b>E4-II 環境の構成</b> ○環境構成と再構成の重要さの理解 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の構成と応用 ○魅力的な環境作り技術の応用 ○環境の要としての保育者のあり方 ○子どもとともに環境を作り出す方策 ○落ち着ける環境の理解と創出 ○地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の発見と活用法の創出	<b>E4-III 環境の構成</b> ○環境の構成と再構成をすすめる基盤作り ○環境と保育者、子どもの関係の明確化 ○自然環境、飼育と栽培、人工的な教材等の精査、導入 ○地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の活用につながる基盤作り ○環境作りの技術指導
		<b>E5-I 指導、援助、見守り等の実践</b> ○子どもに寄り添う共感的な対応 ○子どもに対して使う言葉の精査と非言語の表現 (表情、まなざし、身体表現等)の理解 ○具体的な保育技術、実践内容の習得 ○手段としての保育の理解 遊びの創造と伝承の実践 子どもの主体性の尊重 子ども一人一人の違いの理解 個と集団の関係を意識した実践	<b>E5-II 指導、援助、見守り等の実践</b> ○指導、援助、見守り等の適切な使い分け ○子どもに対して使う言葉や非言語の表現の適切な使い分け ○質の高い保育技術、実践内容の精査、継承 ○手段としての保育の継承 子どもの育ちに生きる遊びの創造と伝承 子どもの主体性を伸ばす実践のあり方 子ども一人一人への適切な対応 一人一人を生かす集団保育のあり方 ○園独自の文化の理解と継承	<b>E5-III 指導、援助、見守り等の実践</b> ○安心して実践を進められる基盤作り ○保育技術や実践内容の取り入れや検証をする仕組み作り ○保育技術や遊びが継承していく仕組み作り ○園独自の文化の創造と精査、継承していくための方策と風土作り
		<b>E6-I 記録</b> (観察の視点) ○さまざまな観察の視点の理解と試行 (記録方法) ○様々な記録方法の理解 個人の記録と集団の記録 エピソード記録、記述など (記録の整理と活用) ○記録の整理の理解と試行	<b>E6-II 記録</b> (観察の視点) ○観察の視点の適切な使い分け (記録方法) ○よりよい記録方法の工夫  (記録の整理と活用) ○記録の整理による共有と活用	<b>E6-III 記録</b> (観察の視点) ○観察の視点についての指導 (記録方法) ○よりよい記録方法の作成、見直し  (記録の整理と活用) ○記録の共有と活用の仕組み作り
		<b>E7-I 実践の評価</b> ○評価の意義の理解 自分の実践を客観的に振り返り、課題を発見する手段として ○保育者間のカンファレンスの意義 ○計画、実践への反映の理解と試行	<b>E7-II 実践の評価</b> ○評価方法の精査と園内での評価結果の共有 ○保育者間のカンファレンスのあり方 ○園の課題の発見と園内での共有 ○計画、実践への適切な反映	<b>E7-III 実践の評価</b> ○評価結果に基づく社会への発信 ○情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の醸成 ○社会の課題の発見と共有 ○計画、実践に反映できる仕組み作り
F	子どもが育つ家庭や地域	<b>F1-I 連携の視点</b> (保・幼・小の連携を学ぶ) ○幼児と児童の交流を知る ○保・幼・小の教職員同士の交流を知る ○小学校のスタートカリキュラムを学ぶ (保護者との連携ができる) ○連絡帳の活用方法 ○コミュニケーション能力を学ぶ ○保護者との懇談会等の在り方を学ぶ  (教育相談の方法と実践を知る) ○教育相談の基本的姿勢 ○個別面談の基本的技法 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解 (情報発信(メディア)の活用方法を知る) ○便利さと危険性の理解	<b>F1-II 連携の視点</b> (保・幼・小の連携を理解する) ○幼児と児童の交流の企画 ○保・幼・小の教職員同士の交流を企画 ○接続を見通したカリキュラムを理解する (保護者との連携に努める) ○保護者啓発のための連絡帳 ○コミュニケーション能力を高める ○保護者との懇談会等の運営を学ぶ ○活動情報誌の作成と活用方法 (教育相談の方法と実践を学ぶ) ○教育相談、個別面談の実践 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解と実践  (メディアの活用方法を考える) ○Webを活用した情報の発信とは ○便利さと危険性の理解	<b>F1-III 連携の視点</b> (保・幼・小の連携への理解と実践) ○接続を見通した交流の企画・運営 ○保・幼・小の発達や学びの連続性を踏まえたカリキュラムの編成  (保護者との連携を深める) ○保護者との懇談会等の運営を企画する ○活動情報誌の作成と活用方法 ○保護者同士の交流の場の提供 ○教育方針、内容理解のための啓発手法 (教育相談の方法と実践を工夫する) ○教育相談の活かし方 ○個別面談の活かし方 ○カウンセリングマインドを活用した教育相談の理解と実践 (メディアの活用方法を発信する) ○Webを活用した情報の発信と活用 ○情報倫理の周知
		<b>F2-I 子育て家庭の支援</b> (家庭を支援する必要性の理解) ○預かり保育の取組み - 教育時間終了後の預かり保育の理解 - 家庭との緊密な連携を図る - 保護者の要請や地域の実態を知る ○子どもと家庭の変容 - 子どもの育ちの変容を理解する - 子育ての変容を理解する - 家庭/家族の変容を知る - 子どもの変容と家族の変容の関連を理解する ○子どものよさを家庭と共有 ○子どもに寄り添う対応 (特別なニーズを持つ家庭を知る) ○療育環境の理解 ○不適切な関わり・虐待への理解と早期発見 ○DV(ドメスティック・バイオレンス)の理解 ○ひとり親家庭への支援 ○子どもの貧困について学ぶ ○自分の育ち(被養育体験)を振り返る	<b>F2-II 子育て家庭の支援</b> (支援が必要な家庭へのアセスメント) ○預かり保育の保育内容に関する計画 - 幼稚園教育の基本を踏まえた保育内容の計画・実践 - 幼児の生活が豊かなものとなる環境を考える ○親の養育観の理解 ○家庭を取り巻く社会環境の理解 ○子育て意識の変化の理解 ○子育ての負担感や不安感への理解 ○子育てと親育ちへの支援の在り方を学ぶ ○未就園児の親子登園の現状を知る  (特別なニーズを持つ家庭を学ぶ) ○虐待への理解と対応 ○DVの理解と対応 ○ひとり親家庭への対応 ○子どもの貧困化の現状を知る 一 格差の拡大一	<b>F2-III 子育て家庭の支援</b> (アセスメントを活用した支援を検討) ○預かり保育の運営並びに支援 - 園内体制の整備 - 関係機関との連携、協力 - 地域の幼児期の教育のセンターとしての役割 ○子育てと親育ちへの支援 ○0～2歳児の家庭支援の在り方 ○未就園児の親子登園の運営  (特別なニーズを持つ家庭への支援) ○専門機関との連携を深める ○虐待への理解と対応 ○DVの理解と対応 ○ひとり親家庭への対応と支援 ○子どもの貧困への支援
		<b>F3-I 社会資源の理解</b> (身近な社会資源を知る) ○病院、保健所、保健センター、社会福祉事務所、図書館、子ども館など (専門機関との交流の意義を知る) ○保健師との連携を考える ○児童相談所、療育センター、保健センターの役割を知る  (コミュニティ・スクールの取組みを知る) ○PTA活動・保護者会を理解する ○地域住民の思いやニーズを知る ○運営にあたって様々な取組みを知る	<b>F3-II 社会資源を知る</b> (専門機関との交流を深める) ○児童相談所、療育センター、保健センターとの交流 ○特別支援地域コーディネーターとの交流について ○民生委員・児童委員、主任児童委員の役割 ○臨床心理士(カウンセラー)との意見交換 ○ファミリーサポートセンターの役割と利用方法 (コミュニティ・スクールの実践を学ぶ) ○PTA活動・保護者会の取組みを学ぶ ○地域住民の思いやニーズを共有する ○先進的な運営の実践を学ぶ ○園や支援組織・団体との連絡調整を学ぶ	<b>F3-III 社会資源を知る</b> (専門機関との連携) ○児童相談所、療育センター、保健センターとの連携について ○特別支援地域コーディネーターの役割と連携について ○民生委員・児童委員、主任児童委員との連携 ○子育てサークルの支援を行う ○子育て支援センターの役割を担う (コミュニティ・スクールの運営) ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○支援者と園の課題やめざす幼児像の共有を図る ○活動計画を作成し実践に取り組む